

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所・放課後等デイサービス りえら		
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援室(教室)が2つあり、児発児童と放課後等デイサービス利用者を区分して療育が行える	1室はパーテーションで区切り2室に分けることができるので、児のカリキュラムによっては仕切って療育を行っている	スペース(部屋)を決めることで、児の療養目的への意識移行が適切に行えるようにする
2	放課後デイサービス利用者を個々に対応することができる	学年等による療育内容を選択し、部屋を振り分けて実施している	児の障害の程度に合わせた教材の充実を図る
3	長期休暇期間においては、所外学習として、買い物体験、図書館訪問なども計画的に実施している	児の興味がある図書を借入れ、所内で朗読するなどをした 地域内の歴史施設や観光施設の見学を実施した 保護者と事前に話し合い、昼食の買い物体験を定期的に実施した	児及び保護者が望むことについて、参考文献などを購入し、児および職員の研鑽を積む

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	長期休暇期間における放デイ児と児童発達児の利用時間が重複し、従事する職員の不足が生じることがある	従前の1対1の対応に加えて、児の障害の程度により対応者数が増すこととなる	多彩な教材等による療育や多様なプログラムの による児への安定した療育活動
2	長期休暇期間における放デイ児の療育プログラムの組み立てが難しくなる現状への対応	1日長時間にわたる療育内容については、児の要望の乖離を解消する	法人内の施設(フットサル場、体育館など)の活用による体を動かすカリキュラムなど、
3	利用者の送迎	長期休暇期間においては、毎日の利用者の送迎を試行したところ、出席率はまあまあであった 所内での療育が少し手薄になる日もあった	毎日の送迎については、運営における影響を精査して行う必要があり、検討を要する